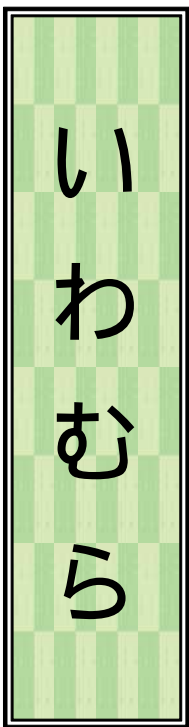




9月26日(土)、岩村公民館運営審議委員のメンバーで、岩村ふれあいセンターの駐車場の白線を引きました。

白線を引きました

ふれあいセンター 駐車場に



発行
岩村公民館

46号

開所から17年がたち、白線がほとんど見えなくなり、夜間田所公民館長が材料のペンキ、ローラーハケ、手ハケ、養生テープを準備して、参加者全員で作業に入りました。1班はホウキで土やほこりを掃き出しています。2班は養生テープを貼る係です。最初はそのまま貼っていましたが、すぐ間隔の不揃いに気づき、メジャーで等間隔に測り、貼り始めました。ただ地面がコンクリートのため思うように引付かず、しかもやや風があつたため、風の力でテープが剥がれるなど、大変な作業になりました。途中から重石を置

秋の日のひだまりにゆれている



金地でコスモスが満開です
金地集会所の東側。情報提供・中尾香代さん

など駐車するのに困るとの声があり、市役所と相談の結果、急きよ公民館で整備することになりました。約2時間の作業で、素人集団にしては上々の仕上がりになりました。(編集部)

将来、子供数が減少!

香南中学校区の将来を考える会

9月30日、香南中学校区の将来を考える会が、日章福祉交流センターで約30名が参加して開催されました。岩村地区からは、田所公民館長・島崎前公民館長・和田民児協会長の3名が参加しました。

まず、竹内南国市教育長より挨拶があり、香南中、日章小、大湊小が10年後にはこのままいけば、生徒数が半減する資料が提示されました。

子供数を増やすための提案、意見が出され、「GOTO香南中・日章小・大湊小キャンペーン」で校区外通学にスクールバスをセツトにした案や英語特例校(3校とも)の特徴を売り出し、夏休みに海外ホームステイの特典を付ける案など活発に提案されました。(編集部)

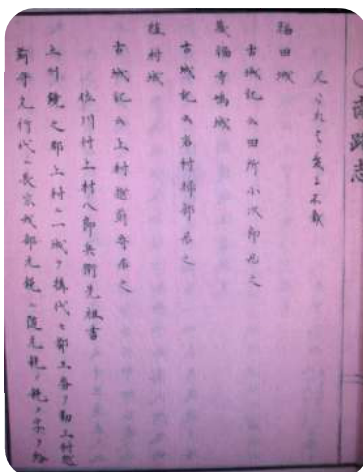
岩村の歴史 ヒストリア

第14回

前号でも記述した「南路志」のデジタル資料を閲覧している中で、偶然、蔵福寺島に蔵福寺島城があつたのを発見しました。しかも城主は岩村掃部と書いてあるではありませんか!

「岩村の歴史ヒストリア第1回」で岩村城の歴史を紹介しましたが、その時、取材した岩村掃部の子孫の方が京田にお住まいになっており、早速、岩村隆宅にお伺いし、詳細をお聞きしました。

蔵福寺島城の記述のある南路志デジタルコレクション巻7上・コマ番号40より



蔵福寺島城があつた「かもん神社」付近

蔵福寺島にお城があつた

城主は岩村掃部(長宗我部の時代)

ただ、蔵福寺島にお城があつた説は初耳の大発見です。子孫の岩村隆氏の話によると、墓盤整備で墓地は南方に移動しましたが、かつての墓地には、岩村家の系図が書かれた「伏せ墓」があり、ビックリされたとの事でした。現在の岩村隆氏は岩村掃部からは14代目に当たりま

す。では、蔵福寺島城はどこにあつたのか。岩村隆氏は、先祖の墓が残り、お宮のある横の大木のある場所だろうと推測されています。大畠達郎さん宅の南側で山崎順子さん宅の西側です。土堀に囲まれた平城が予想されます。ご近所の方の話では、この

岩村掃部の父親の大井式部俊忠は天正5年(1578年)5月に引越したと書いてあります。子の岩村掃部は蔵福寺島に住居とあり、この時に蔵福寺島城主となつたと考えられます。天正5年ごろは中央では織田信長の時代であり、長宗我部元親は讃岐を平定し、伊予と阿波に攻め込んでいる時代です。

お宮は「かもん様」または「かもん神社」と呼ばれており、ここで間違いないようです。岩村家に残されている巻物の貴重な資料によると、大井式部俊忠

南路志とは江戸時代後期の1815年に高知城下の武藤到和・平道父子が中心になって編纂した120巻に及ぶ土佐の国の歴史書です。参考文献 南路志デジタルコレクション

天正五年五月二引越
元親公二仕へ安藝郡大井邑領之
其後京田邑二引越又知行拝領
而住又是八委ノ難知
子二人修理之亮
掃部是八蔵福寺嶋邑住居
(原文のまま、一部抜粋)

岩村隆家 家系図及び巻物他貴重な資料の数々